

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 宝塚市

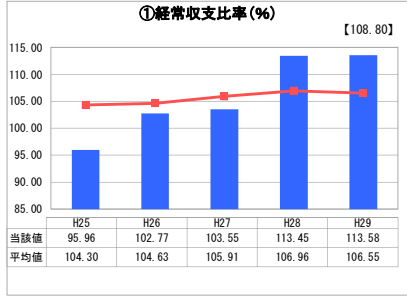
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	69.05	98.77	88.27	1,814

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
234,662	101.80	2,305.13
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
231,408	24.17	9,574.18

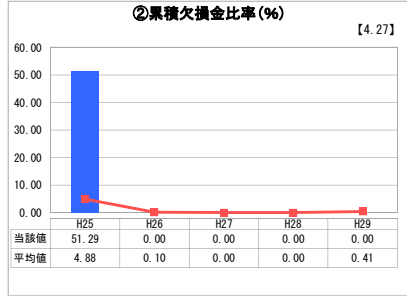
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

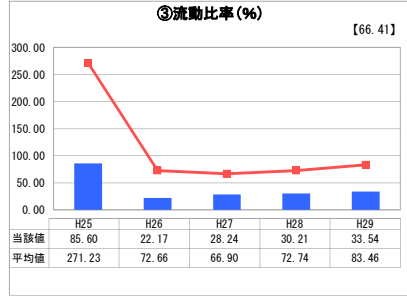
1. 経営の健全性・効率性



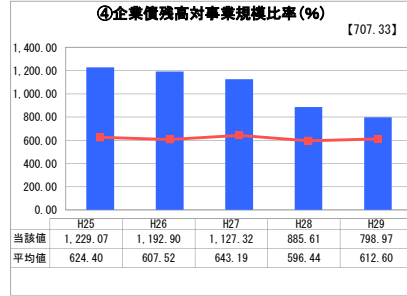
「経常損益」



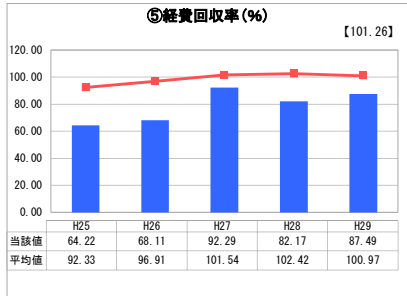
「累積欠損」



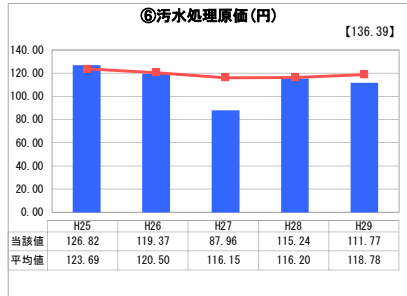
「支払能力」



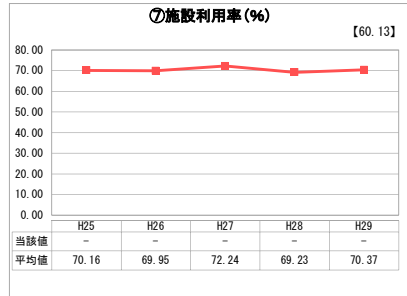
「債務残高」



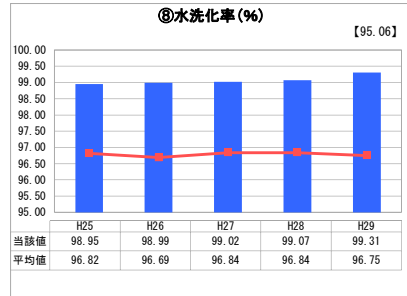
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

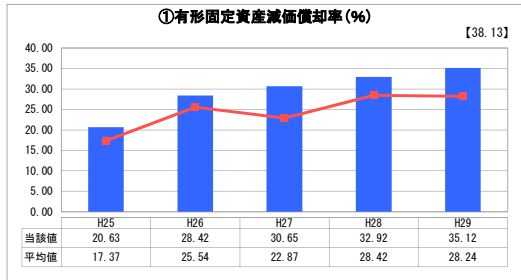


「施設の効率性」

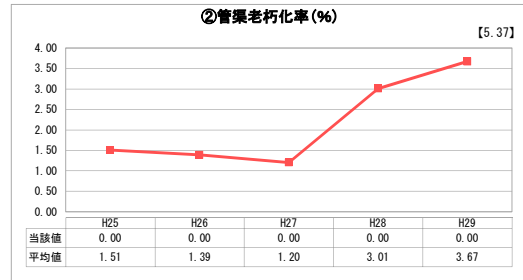


「使用料対象の捕捉」

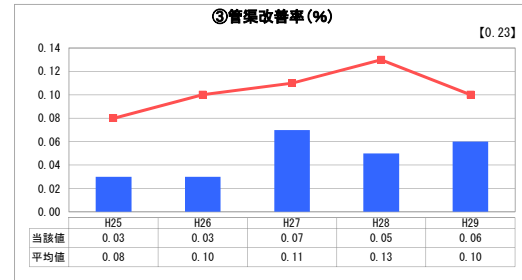
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似団体平均値と比べて7.03ポイント高い113.58%となっている一方、流動比率は類似団体平均値と比べて49.92ポイント低い33.54%となっており、類似団体よりも多額の黒字を計上しているにもかかわらず、資金残高が少ない現状が見て取れます。企業債残高対事業規模比率が類似団体平均値と比べて高いことから、企業債の元金償還が経営を圧迫し、資金的に厳しい状況を作っていると考えられます。しかし、今後5年程度で元金償還額が減価償却費の額を下回る水準まで減少する見込みであるため、資金的に厳しい状況は近い将来に改善する見込みです。

また、指標から読み取ることができる問題点として、経費回収率の低さが挙げられます。経費回収率は7.49%であり、類似団体平均値と比べて13.48ポイント下回っています。資金の状況を改善するためにも、経費回収率が100%となるよう、更なる費用削減等に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

管路老朽化率は0であり、老朽化している資産はありません。昭和50年代に開発した資産が多く、今後10年程度は老朽化が問題になることはないと考えています。

全体総括

下水処理場を有していないため年度一定の流域下水道負担金が必要であることや汚水処理原価が類似団体平均値を下回っていることを考えると、これ以上の経費削減は難しい現状ではありますが、「宝塚市下水道事業経営戦略」に掲げた経営健全化に努め、経費回収率を100%に近づけるよう努めます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。